

大船山

第 5 号

令和 4 年 5 月 27 日

ホームページ <http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/>

感染予防対策と従来の教育活動を取り戻すこと

校 長 細江 幸次

今年のゴールデンウィークは県内外各所大変な人出だったようで、テレビ・新聞などの報道では、「3年ぶりのにぎわい」といった文言をよく目にしました。この2年余り、コロナ禍により停滞気味だった空気感が明るく躍動的に変化してきたように感じます。また、ここにきて屋外においては密にならなければマスクの着用はなくてもよいのではないかという議論も出始めています。しかし、感染者数については第6波のピーク時に比べれば確かに減少しているものの、安心してすぐにマスクをはずすほど順調に減ってきているとは決して言えない状況にあると思います。

5月中は多くの地域協力者の方々にご来校いただき、各学年で例年行っている栽培活動を行うことができました。また、子どもたちが学校外に出て学ぶ地域めぐりも予定通り、無事に終えることができました。そこで決して忘れてならないことは、子どもたちも地域協力者の方々も、そして学校職員もこれまで同様、またはそれ以上の感染防止対策を行ってきたことがその背景にあります。従来の教育活動を取り戻す、従来の日常生活を取り戻していくことには、それに向かっていくためのステップがあるはずです。幾度となく変異を繰り返し、猛威を奮ってきた新型コロナウイルスが一気になくなることは到底あり得ません。

学校ではこれまで行ってきた感染予防活動を引き続き適切に行いながら、コロナ禍以前に行ってきた教育活動を順次再開していくことが肝要であると考えています。6月には6年生の修学旅行が予定されています。今のところ3年ぶりに予定通りの期日で予定通りの場所で実施できそうです。中旬には学校プールで水泳の授業が始まります。下旬にはこれも3年ぶりに山岡陶業文化センターに出かけて粘土教室が実施できそうです。まだしばらく、制約のある生活が続きそうですが、その中で実りある教育活動を進めていきます。

